

交通バリアフリー講習会の開催について

1. 時期

令和6年8月20日（火）

2. 出席者

公共交通事業者、建築関係団体、福祉団体、公安委員会、小学校教諭、その他行政関係者等
（男性17名、女性10名、計27名）

3. 場所

カクイックス交流センター（かごしま県民交流センター）

4. 内容（予定）

【第一部：講演】（約60分）

講演「交通分野における心のバリアフリーについて」

講師 紙屋 久美子 氏（特定非営利活動法人eワーカーズ鹿児島）

小山 義方 氏（特定非営利活動法人光の会）

堤 加代子 氏（就労継続支援B型事業所かごしまバリアフリースターセンター）

【第二部：体験】（約90分）

車椅子及び高齢者疑似体験セットを使用しての低床バス乗降体験

講師 鹿児島県介護実習・普及センター、市交通局バス事業課

（当日写真）



交通バリアフリー講習会 アンケート（抜粋）

○講演

- ・今まで勇気がなく、困った人に声掛けできませんでした。断られた場合も、次につなげて勇気を出していきたいと思いました。（行政）
- ・実際の体験や経験をもとにお話しいただき、大変参考になった。（行政）
- ・人がみな性格が違うように、障害もみな違い、必要な助けも人によるという話が印象に残りました（行政）
- ・障がいを持った方への声掛け（コミュニケーション）が重要だと感じた。一方で断られた時のことを考えてしまう。（行政）
- ・認識の違いで「良い」or「悪い」サポートとなることを改めて理解できました。（全ての人がサポートを必要とするわけではない）（交通事業者）
- ・身体障害者が困っているときは、声をかけたいと思うのですが、やはり勇気が必要だと思います。でも、その少しの心遣いが困っている障害者にとってはとても助かるひと声になることがわかったので、積極的に声をかけたいと思いました。（建築関係）
- ・事例を挙げながら話をしてくださり、とても分かりやすかったです。大変勉強になりました。やさしさと勇気、断られても気にしない、そんな気持ちが大切だと思いました。（学校関係）

○トークセッション

- ・すみませんという言葉をよく使っていましたが、ありがとうという言葉を使うことを考えもしませんでした。考え方一つでいい方向に行けるのだなと感じました。（行政）
- ・なかなか当事者の生の声を聴く機会がないなかで貴重でした。ぜひ様々なところでたくさんの方に聞いていただきたいです。（行政）
- ・何が助けになって何に困ったのか具体的なエピソードを聞き、理解が深まった。（行政）
- ・視覚障害、車いすの方、それぞれの視点でうれしかったことやもっとこうしてほしいなど、気づきとなる点があった。（行政）
- ・視覚障害、車いすの方、それぞれの視点でうれしかったことやもっとこうしてほしいなど、気づきとなる点があった。（行政）
- ・白杖を挙げているときにSOSということを知ったので、このような情報をたくさんほしいと思った。（学校関係）
- ・生の声を聴くことができ大変良かったです。お二人とも明るくすがすがしい感じがしました。「すみません」から「ありがとうございます」への言葉の変換が大切だと感じました。お話を聞かせてくださりありがたかったです。（学校関係）

○車いす体験

- ・体験したことで利用している人の体感を知ることができました。（行政）
- ・車椅子に乗った時、介助したときどちらも気づきがあって参考となった。（行政）
- ・車いすに乗った時の怖さや地面との近さを体験することができた。（学校関係）
- ・車いすでバスに乗るといった貴重な体験ができた。車いすの使い方も再確認できてよかった。（学校関係）

○高齢者疑似体験

- ・視力が悪くなるのがこんなにも怖いとは思いませんでした。高齢者を見かけた際にはお手伝いしたいです。（行政）
- ・想像以上に大変でした。中学生や高校生のうちから体験してほしい。（行政）
- ・高齢者の日常生活における負担の一部を体験し、つらさを感じた。（建築関係）
- ・高齢者疑似体験、低床バス乗降体験どちらも大変参考になりました。鹿児島市内はほとんど低床バスとのこと、やさしい町住みやすい町につながると感じます。（学校関係）
- ・とても怖かった。焦らせるようなことは慎み、やさしい声掛けをしたいと感じた。（その他）